

整理番号	16-9	事務事業名	クリーンセンター管理運営事業	作成部署	市民環境部 環境課廃棄物担当	電話	内線826	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	滝本 明	課長職名	奥野 章	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S54	根拠法令等						
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	ごみの処分(市内で発生する一般廃棄物の破碎処理と最終処分)							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	環境と共生する快適なまち	(第2章)
	節	廃棄物とリサイクル	(第4節)
	施策	施設の整備	(第2施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	市内で出るごみ(一般廃棄物及び一部産業廃棄物)	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	ごみの適正処理(破碎埋立)と資源ごみの分別、民間委託化による効率的運営	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	ごみの破碎埋立処理、資源ごみの分別とリサイクル
		17年度	ごみの破碎埋立処理、資源ごみの分別とリサイクル

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	161,143	145,635	144,873	144,873
	合計	161,143	145,635	144,873	144,873
人件費 (概算)	人数(年間)	0.05	0.05	0.05	0.05
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	450	450	450	450
総事業費 +		161,593	146,085	145,323	145,323

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	ごみ処理総量	26,063t	26,139t	25,900t	25,850t
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	埋立処理量	24,597t	24,763t	24,600t	24,500t
	資源ごみ出荷量	1,292t	1,187t	1,300t	1,350t
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	ごみ1トン当り処理単価	6,200円	5,589円	5,611円	5,633円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	ごみ処理経費については、新たな中間処理方法に変わることで、収集・運搬方法の変更等が必要になり、経費が増えることが予想される。また、一方でごみ減量化やごみ処理経費の公平な負担の観点から、住民理解のもとで家庭ごみ処理の有料化について検討していく必要がある。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありますか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市内で発生するごみ(一般廃棄物)の処理は市に責務がある。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	ごみの適正とコスト削減を目的としており、妥当である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	ごみの適正処理として、破碎埋立を行ってきた。施設運営も早期に民間委託化している。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		ごみ処理に係る経費については、これまで税金で全て賄われてきたが、ごみ減量化の推進からも、住民理解のもと家庭ごみの有料化が必要となってきたと考えている。

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	ごみ処理は適正処理を行ってきているが、破碎処理施設の老朽化に伴い、今後は維持管理経費の増加と施設の更新が必要となる。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	ごみ処理については適正処理を行ってきており、クリーンセンターの運営についても早期に委託化し、経費削減に努めている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	広域のごみ処理施設ができるまでは現状のまま継続することになるが、広域処理が始まることにより、ごみの収集、運搬等が変わるため、経費の見直しが必要となる。家庭ごみの有料化についても検討を進めていく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	家庭系廃棄物の処理について減量化を進めるとともに、家庭ごみの有料化について平成20年度実施に向け検討する。